

令和6年7月17日
作成 小山世話人
佐藤かづ子副支部長

令和6年度岩手パーキンソン病友の会

県南地区交流会報告書【7月】

日 時：令和6年7月17日（水）10時～12時

場 所：サンアビリテーズ一関 研修室

内 容：井戸端会議・ミニ勉強会②

参加者：小山世話人、佐藤かづ子副支部長、一関保健所 佐々木さん（2回目）
他4名（2名が体調不良で欠席）

【事前準備】

- ・6月19日の交流会から保健所 佐々木さんに参加して頂き、パーキンソン病患者が利用できる公的支援制度のミニ勉強会をしている。今回は「ミニ勉強会②」
前回の「ミニ勉強会①」は初めての試みだったため、参加者もどんな質問をしたら良いのかとの戸惑いもあってか質問が出るまで時間がかかった。今回は前回の反省を踏まえて、佐藤かづ子副支部長が質問事項を準備して佐々木さんと打ち合わせをおこなった。

【内容】

① 自己紹介

- ・初めて参加した非会員の方
パーキンソン病として診断されて1年目。今回、交流会で同じパーキンソン病患者の経験談を聞き、パーキンソン病と上手く付き合うための参考にしたい。
- ・身体障害者手帳申請を主治医に3回位相談したが、無理だと言われたので申請していない。
→参加者から身体障害者手帳は審査会で決定するので主治医に無理だと言われて諦めずに自分が納得できるよう、申請してみるべきとの意見がでた。

② 「ミニ勉強会②」

- ・佐藤かづ子副支部長が保健所佐々木さんと事前の打ち合わせした質問をしたことをきっかけに参加者が積極的に質問するようになった。佐々木さんは聞き上手で相手の質問を頷きながら聞いてから答えるため、参加者も質問しやすかったようである。
- ・佐々木さんから特定医療費（指定難病）受給者証更新手続きのあとに防災対策のアンケートをとらせて頂きありがとうございます。防災対策を策定するための参考にしますと挨拶があった。
- ・参加者からもアンケートによって防災対策の必要性を再確認するきっかけになったとの発言があった。

【良かった点】

- ・前回の反省を踏まえ、佐藤かづ子副支部長が質問事項を準備して保健所佐々木さんと事前に打ち合わせし、参加者が質問しやすいように配慮したため、参加者から積極的に質問がでた。
- ・5月の交流会で皆さんが話す困り事・わからないことなどを解決することも必要と思う。との意見が出てすぐに一関保健所との連携が実現できて参加者のためになる交流会になったと思う。参加者からも好評である。
- ・常に参加者の望む交流会の在り方を考えていくことが必要である。

【次回の予定】

一関市健康だよりに掲載し、県南地区の活動を広く周知し、参加者を募る（20名）

日 時：令和6年8月30日（金）10：00～12：00

場 所：サンアビリティーズ・一関 多目的ホール

内 容：パーキンソン病患者が利用できる公的支援制度について
一関保健所保健課（難病担当）